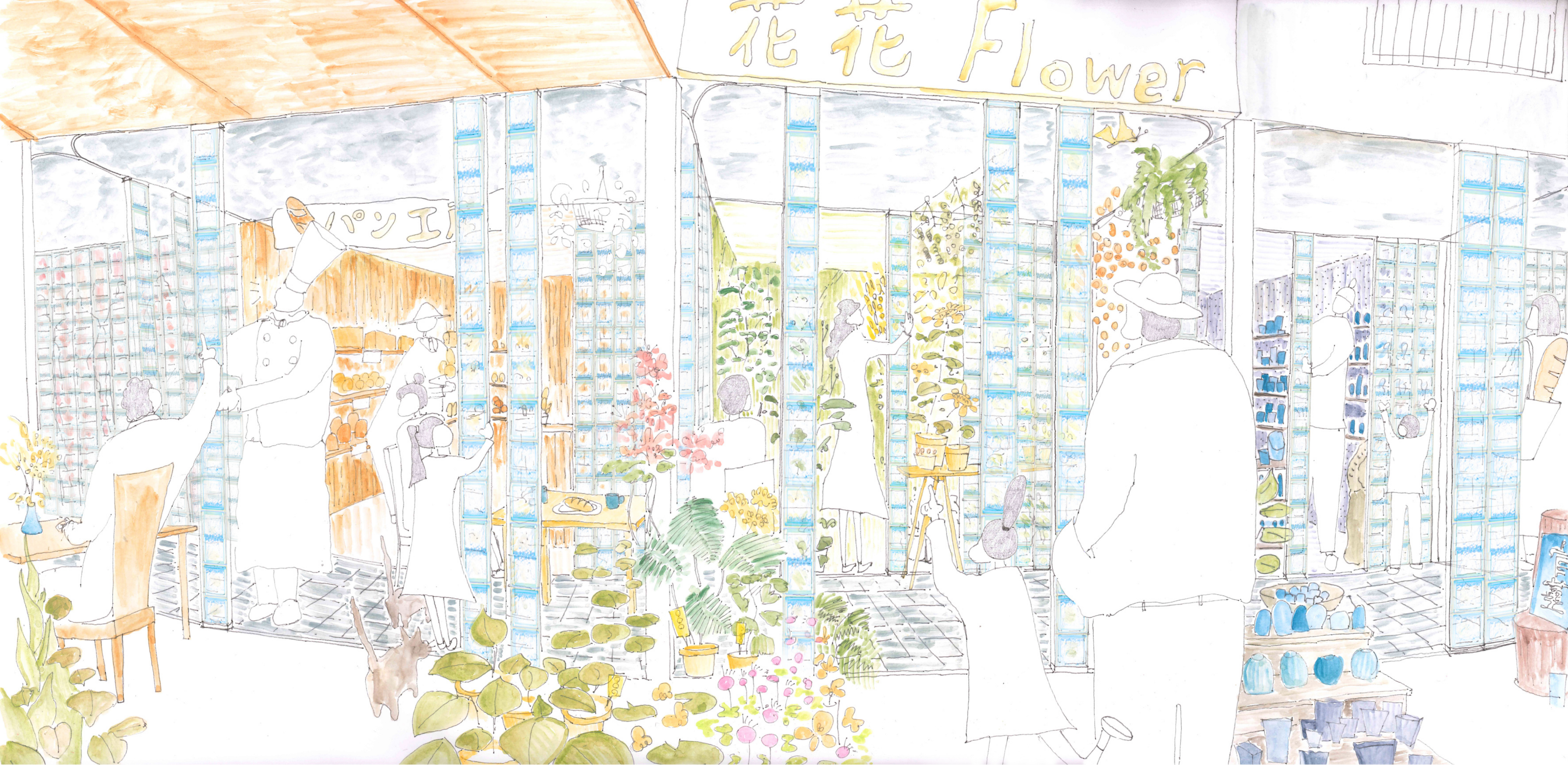




がらがら がらスティック

▶ ガラスブロックを小さく、ほどく

例えば、
散歩に連れ出したかわいい犬から
見知らぬ人との会話が始まるように。
「かわいい」の本質とは、
こう着した関係性を融和することではないだろうか。

商店街におけるシャッターは
0と1の関係を生み出している。
そこでガラスブロックをタテに積んだ
がらスティックに取り換えてみる。

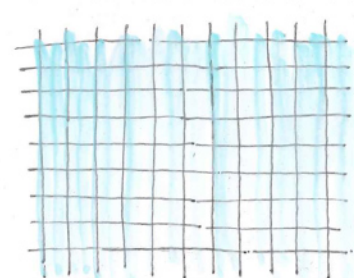
身体スケールまで小さくなったがらスティックは
光を通す壁としての役割をもちつつ、
触れることで動きます。

がらがらがら

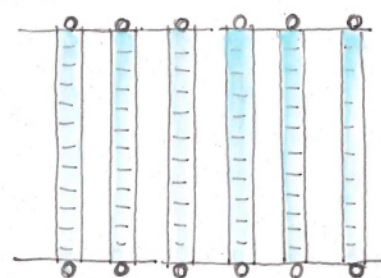
ママーこれ動くよー！
いらっしやい！お嬢ちゃんこれ食べるかい？

がらがらがら

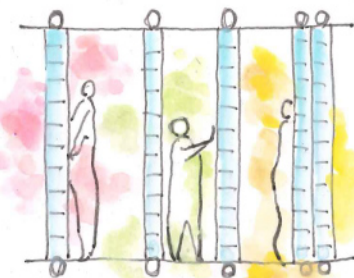
かわいいガラスブロックとは
ヒト、モノ、コトの関係性を融和させ、
キャラクターとして多くのヒトに親しまれる存在である。



大きな面は人が寄り付かない

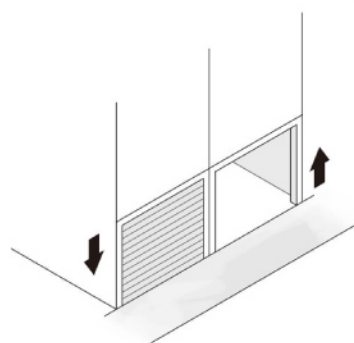


線のがらスティック



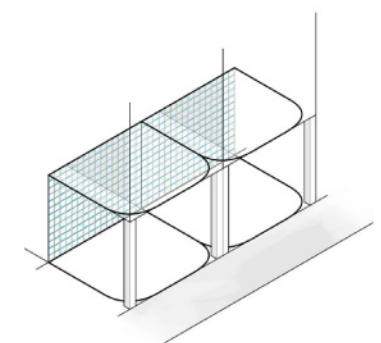
人が入り込む余地をもつ

▶ 日常的に変化する透明な仕切り



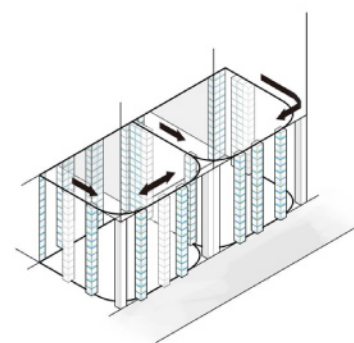
1. 大きな動きを持つシャッター

従来のシャッターは
0と1の関係しかない。



2. がらスティックに取り換える

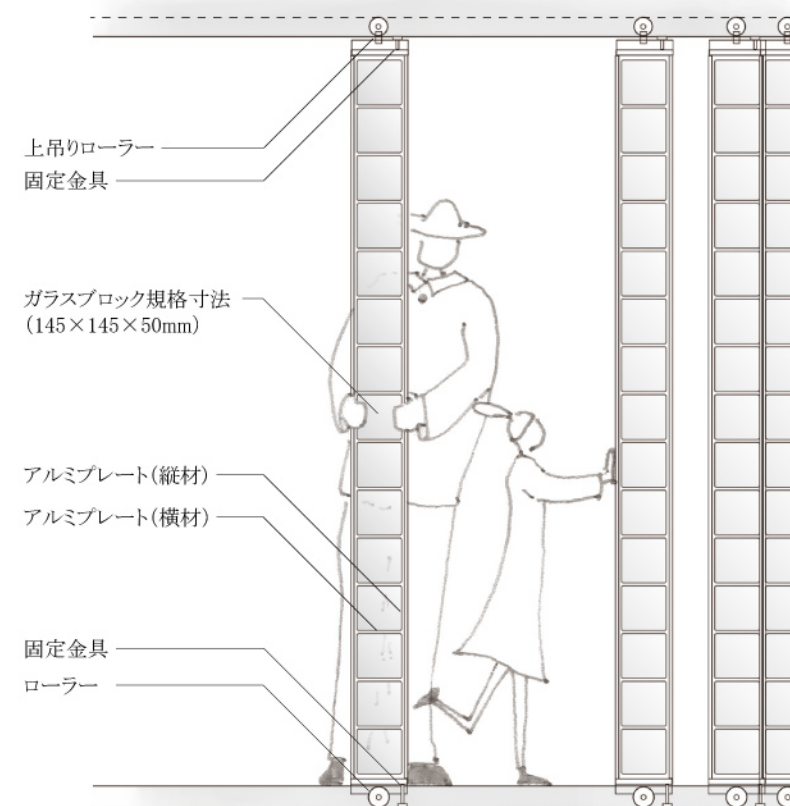
透過性をもつガラスブロックは
内と外の関係性を曖昧にする。



3. 小さく動く多様な仕切り方

触れることで
日常的に変化する境界。

▶ がらスティックのしくみ



上吊りローラーのため子どもも操作可能



一夜 お酒片手に店内を覗く